

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 21 日現在

機関番号：84202

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2014

課題番号：22520840

研究課題名(和文)琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画

研究課題名(英文) A comparative ethnological study related to the aquatic environment at Lake Biwa (Japan) and TaiHu Lake (China), and the planning of an exhibition of the results

研究代表者

楊平 (YANG, Ping)

滋賀県立琵琶湖博物館・研究部・主任学芸員

研究者番号：50470183

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、水環境の変化が著しい琵琶湖と太湖周辺地域を対象として取り上げ、環境利用の普遍性と独自性を明らかにした。特に、人々の生活・生業世界から蓄積してきた「複合文化」の論理と実践性に焦点をあてることによって、水をめぐる環境づくりと地域活性化の論理に新たな視点を提示し、湖の保全対策についての比較の実証研究と成果展示の貢献可能性を提供した。

研究成果の概要(英文)：This study revealed commonalities and unique features of the regions around Lake Biwa and Lake Tai-Hu with respect to people's use of the aquatic environment there. The fundamental principles underlying people's "culture", developed within the ambit of their daily life and their subsistence-related occupations, as well as their actual practices with respect to the aquatic environment, were the foci of the analysis. The conditions favoring maintenance of the aquatic environment are presented from a new point of view. An account is also offered of the realization of an exhibition based on the results of this relatively empirical study of lake conservation measures.

研究分野：社会科学

キーワード：水環境 琵琶湖 太湖 湧水 井戸 生活・生業 水上生活 展示

1. 研究開始当初の背景

主に以下の3点に集約される。

(1)「湖」をめぐる環境保全のための社会科学的な新たな視点の提示が広く求められていた。特に、その「湖沼環境」対策の比較の実証研究と成果展示企画の可能性についての論理的追究や民俗文化財などの比較展示の方法論的検討が必要とされていた。

(2)琵琶湖と中国・太湖は、漁業と水田稲作が共に盛んな湖沼環境である。本研究の代表者は「生活・生業」に焦点をあて、2000年から太湖、2007年から琵琶湖を主な調査フィールドとし、「現場の実践的取組」に注目しながら、新たな考察や視点の提示をしてきていた。琵琶湖においては、「琵琶湖総合開発計画」が実施されて以降、自然や民俗文化、生活や生業の様式などが急激に変化し、また多くの大切なものが失われつつあった。一方、太湖を含めて東アジアの多くの湖も都市化や近代化の中で同様な状況に直面しつつあった。その中で、湖沼間の情報共有や研究交流を深め、湖をめぐる環境保全の論理をいかに構築できるのかが実践的で重要な課題であると考えた。

(3)「湖」をめぐる伝統的・歴史的民俗文化財を中心とし、失われつつある資料の記録や保存は急務であり、これらの資料を如何に有効活用ができるのかを検討する必要があった。一方では、琵琶湖博物館における企画展示を通して、湖と人との多彩なかかわり、そして湖をめぐる人々の多様な関心を取り戻すことが必要であり可能であると考えていた。

2. 研究の目的

東アジアの湖沼域における近代化や都市化に伴う環境の急激な変化は、人々の生活・生業に影響を及ぼし、人と自然との豊かな関わりや暮らしの知恵、文化財など貴重なものも失ってきた。現在、私たちは、大切な文化財を有効に保存・活用し、湖をめぐる「環境」への関心をいかにして取り戻すことができるだろうか。また稲作文化など多くの共通項をもつ東アジアの「湖」と人との関わりについて、民俗・社会学調査研究における「生活論理」の中で、どのような実践が可能であろうか。本研究は、水利用の実態を民俗学・社会学的調査によって、生活・生業世界から水環境の保全につなげようとするものである。特に、実践的研究の推進においては、「生活の論理」を視野に入れて、水環境をめぐる保全対策の新たな視点の提示を試みることに主眼があった。

具体的には、主に湧水の利用変遷、井戸やカワトなどの形態と機能、水利用民具の比較や伝統的木造船の分布、資源利用や保存を通じて、稲作や漁業も盛んである日本・琵琶湖と中国・太湖集水域の普遍性と独自性を明らかにすることであった。また社会学の比較の実証研究を通して、蓄積のあった「生活の論

理」を東アジアへの応用可能な実践モデルを構築するとともに、博物館企画展示や図録の刊行、国際シンポジウム・講演会の開催などにより研究成果の一般公開をより広く図っていくことであった。

3. 研究の方法

(1)琵琶湖と太湖の集水域における生活・生業のための水をめぐる環境利用の実態を民俗学的・社会学的方法によるフィールド調査における聞き取りに基づいて研究を進めた。

(2)水環境における固有性と普遍性を明らかにするため、稲作農業や漁業を営む地域を中心に、特に湧水の利用変遷、井戸やカワトの形態と機能、水利用民具の比較、伝統的木造船や伝統的定置網漁の分布、自然資源の利用と保存などについて現地調査とその成果を積み重ねて記録化を図るなどして研究を進めた。

(3)本研究では、地域の水利用実態の記録化、水路地図の作成、民具利用などの基本調査を積み重ねた。住民の水利用の変化と現状、水環境の保全組織と人々の工夫と実践について、詳細な聞き取り調査により明らかにした。特に環境保全の社会的仕組みに焦点を絞り、その解明に努めた。地域保全対策に応用可能な枠組みや論理を社会学的分析した。

4. 研究成果

以下の6点をあげることとする。

(1)琵琶湖水系における調査

琵琶湖水系における湧水・カワトをはじめとする水環境の実態調査については、米原市泉神社湧水をはじめ長浜市海老江、川合、馬上、神照寺、彦根市十王村、近江八幡市浅小井、高島市針江などにおいて詳細な調査を行い、水環境と地域社会の関係から住民主体による水環境の利用と管理の実態を記録した。

(2)太湖水系における調査

太湖周辺における水環境調査は、太湖東部の湖岸域集落や水不足の東北地方の村落を中心に行い、主に農民や水上居住の家船漁民からの聞き取り調査を実施した。あわせて、無錫市から蘇州市にかけての家船分布調査を行い、航空写真による図化作業と分布の経年変化を記録した。

(3)民具調査と比較民俗資料の蓄積

琵琶湖の風物詩ともいわれる定置網のエリの分布や水関連の民具の使用状況が調査により明らかになりつつあり、これとの比較資料として、太湖周辺での航空写真と現地調査によってエリの分布や形態、民具の種類などを図化・記録化し、琵琶湖との比較検討資料の蓄積を行った。

(4) 実例研究と追究視角

実例研究では、調査となる各地の水環境の利用実態について村単位で詳細に行い、民俗・社会学的研究手法を用いて課題を整理し、

村の社会的仕組みと生活・生業戦略の論理を追究した。保全対策と地域活性化の今後へ向けて、社会学の新たな役割と「生活の論理」の有効性と実践性を分析した。研究期間中の調査研究の結果については、学会発表や学術論文などによって学術的公開を行った。

(5) 研究交流と研究調査の一般公開

市民や研究者など多くの人々との交流を深め、「湖」への関心を取り戻すため、各調査地において、地元住民や研究協力者、関連分野の研究者らと共同調査と意見交換会を行ったとともに、主に展示企画や講演会、新聞コラム連載などにより研究成果の一般公開を図った。

主な展示企画と講演会においては、2012年に『民具を科学する』、『東アジアの水と漁業』、2013年に『村の至宝 - 湧水と井戸 - 』、中国湖南省における展示会『魚米之郷』を展示企画し、2014年に日中共同博物館・大学連携講演会『魚米之郷を語る』も琵琶湖博物館で開催した。そして、琵琶湖博物館の年間における最大の事業である平成 2014 年度企画展示『魚米之郷 太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし - 』を企画・開催し、そこでの展示図録解説書『魚米之郷』の刊行を行った。また、関連行事である講演会やイベントの実施と終了後における中国での共同講演会も実施し、日中の研究者・学生の研究交流を行った。さらに、一般向けには、中日新聞コラム『湖岸より』をシリーズ化して連載するなど、広く成果公表に努めた。

(6) 今後の展望

本研究において蓄積した民具や民俗資料、調査記録、図面・写真などの資料をさらに分析しながら、新しい日中の湖沼環境をめぐる研究交流の一助になるよう利用していきたい。今後、企画展示と研究会に市民の参加をさらに広く得ながら開催し、一方でこれまでの研究成果は、平成 27 年 12 月には、『琵琶湖博物館研究報告書』第 28 号として刊行する予定である。

水環境の急激な変化によって生活様式が変わりつつある中で、多様な植物や動物をめぐる伝統的生活文化に関して、いくつかの課題として残されている。今後、東アジアの各地の湖と暮らす人々の生活文化を視野に入れ、関連分野との連携を深め、本研究の成果をふまえ、さらに研究を進展させていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 16 件)

楊平、「地域における「水辺」の維持管理基盤 中国江南水郷地帯の家船民と農民による生活環境保全」、『21世紀東アジア社会学』、査読有、No3、2010年、194-202.

楊平・Zhu W, 「The Environment Change and Landscape in Tai Lake, China」、

『Studies of landscape history on the East Asian Inlands Sea』、査読無、2010年、33-40.

楊平・用田政晴、「名水百選認定と農村水環境の歴史的保全」、『生活文化史』、査読有、第 58 号、2010 年、3-12.

楊平・用田政晴、「水環境の歴史的保全を社会学から考える - 泉神社湧水 - 」、『佐加太』、査読無、第 32 号、2010 年、2-3.

Yang Ping・Zhu W・Tan X, 「Comparative environmental analyses of paddy fields in two lake catchment areas: Lake Taihu China and Lake Biwa Japan」、『IEEE PRESS International Symposium on Water Resource and Environmental Protection』、査読有、Vol.4、2011年、2597-2600.

楊平、「環境資源としての水を生かした村の実践 琵琶湖からみた太湖との比較研究の試み」、『日中社会学研究』、査読有、第 19 号、2012 年、142-158.

楊平、「名水の里の魅力」、『近江文庫』、査読無、創刊号、2012 年、58-59.

用田政晴、「民具資料の整理 - 考古民俗学的方法論の試み - 」、『民具研究』145、査読有、2012 年、51-60.

楊平、「从环境社会学研究領域探讨环境教育的方向」、『哲学社会科学』、査読有、Vol.15、2014 年、21-23.

楊平、「人与自然关系的修复—日本琵琶湖治理与生活环境主义的应用」、『湖泊科学』、査読有、Vol.1.26、No5、2014 年、807-812.

ZHU W, YANG Ping, GONG M, 「Japan's multi-natural river regulation and its enlightenment to China」、『WATER RESOURCES PROTECTION』、査読有、Vol.1.31、No1、2014 年、22-29.

楊平、「水辺生活にみる慣習的共生システムの形成と湖保全の持続可能性」、『湖の現状と未来可能性』、査読無、No3、2014 年、27-39.

楊平、「Water and the culture of Everyday Life」、『Lake Biwa Guidebook』、査読無、2014 年、76-77.

楊平、「从生活環境主義的立場読解琵琶湖流域的河川管理」、『水資源保護』、査読有、Vol.1.31、No1、2014 年、16-21.

楊平、「水辺の生活を通して共通の「リズム」探る」、『湖国と文化』、査読無、2014 年、79-81.

楊平、「環境の継続的保全は何で決まるのか 資源利用から考える」、『21世紀東アジア社会学』、査読有、2015 年.

[学会発表](計 17 件)

楊平、The transformation of the waterside scene-Around the Tai Lake catchment area-、総合地球環境学研究所

研究会、2010年5月21日、大谷会館(京都府・京都市)

楊平、地域コミュニティにおける水辺利用と管理に関する環境社会学的研究、琵琶湖博物館研究会、2010年6月27日、滋賀県立琵琶湖博物館(滋賀県・草津市)
牧野厚史・楊平、Analysis of the Social Conditions Amenable for Sustainable Organic Rice Farming around Lake Biwa in Japan、日本村落社会学会国際大会、2010年9月8日、フィリピン

楊平、水環境をめぐる保全の仕組み、琵琶湖博物館環境史領域研究会、2010年11月26日、滋賀県立琵琶湖博物館(滋賀県・草津市)

Yang Ping, Zhu W, Li M, Effects of eutrophication on boatmen's life in Tai Lake、The 7th International Shallow Lake Conference、2011年4月26日、WuXi(China)

Yang Ping, Zhu W, Tan X, Comparative environmental analyses of paddy fields in two lake catchment areas: Tai Lake, China and Lake Biwa Japan、2011 International Symposium on Water Resource and Environmental Protection、2011年5月21日、XiAn(China)

楊平、湖の開発と家船生活者たち 中国太湖流域における家船民の環境利用にみる開発への対応、日中社会学会大会、2011年6月5日、関西学院大学(兵庫県・西宮市)

楊平、家船生活にもたらす湖の開発とその対応、2011年6月17日、琵琶湖博物館研究セミナー、滋賀県立琵琶湖博物館(滋賀県・草津市)

楊平、Water landscape for People Living on the water in Tai Lake, China、総合地球環境学研究所研究発表会、2011年10月9日、総合地球環境学研究所(京都府・京都市)

Yang Ping, Zhu W, Yuasa T, Maintenance and management of paddy fields for the conservation of the waterside ecotone、第14回世界湖沼会議、2011年11月2日、オースティン(アメリカ)

楊平、江南における水田をめぐる水辺環境、琵琶湖博物館研究会、2011年12月12日、滋賀県立琵琶湖博物館(滋賀県・草津市)

楊平、Environmental change and boatman's life in TaiHu Lake、IRUSA 世界村落社会学会国際大会、2012年8月4日、リスボン(ポルトガル)

楊平、水辺暮らしからみた湖の環境変容と持続的利用のありかた、国際シンポジウム湖の現状と未来可能性、2013年1月13日、上海市(中国)

楊平、水田稲作と資源の共同利用、琵琶

湖博物館研究セミナー、2013年2月15日、滋賀県立琵琶湖博物館(滋賀県・草津市)

楊平、湖の保全と暮らし、洞庭湖・びわ湖流域共同環境セミナー、2013年7月16日、長沙市(中国)

楊平、企画展示からみた湖と人の暮らし、琵琶湖博物館研究セミナー、2014年10月17日、滋賀県立琵琶湖博物館(滋賀県・草津市)

楊平、「水田養魚」にみる稲作農業、第3回生物多様性を育む農業国際会議、2014年12月6日、大崎市民会館(宮城県・大崎市)

〔図書〕(計 3 件)

楊平、他、琵琶湖博物館、『魚米之郷 太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし』、2014年、112。

楊平、昭和堂出版、「中国・太湖における暮らしと景観の保全」、2012年、212-225、『景観から未来へ』内山純蔵、カティ・リンドストロム編、238。

楊平、文一総合出版、「中国・江南水郷の水辺暮らし」、2011年、172-173、「中国・太湖の家船生活と水辺環境」、2011年、174-175、『生命の湖 琵琶湖をさぐる』滋賀県立琵琶湖博物館編、2011年、219。

〔その他〕

本研究関連の主な展示企画は、琵琶湖博物館において下記の通りに実施した。

琵琶湖博物館第22回企画展示『魚米之郷 - 太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし』(開催期間:2014年7月19日~11月24日)

琵琶湖博物館「集う・使う・創る 新空間」展示『村の至宝 湧水と井戸』(開催期間:2013年2月20日~3月17日)

琵琶湖博物館第20回企画展示『ニゴロの大冒険~フナから見た田んぼの生きもののにぎわい~』の一部展示、「東アジアの水と漁撈」(開催期間:2012年7月14日~11月25日)

琵琶湖博物館ギャラリー展示『民具を科学する』(開催期間:2012年1月7日~3月11日)

琵琶湖博物館民俗資料データベース

<http://www.lbm.go.jp/emuseum/database/minzoku/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

楊平(YANG, Ping)

滋賀県立琵琶湖博物館・主任学芸員

研究者番号:50470183

(2) 研究分担者

用田 政晴(YODA, Masaharu)

滋賀県立琵琶湖博物館・総括学芸員
研究者番号：00359259

(3)研究協力者

朱 偉 (ZHU,Wei)

河海大学・環境学院・教授

滋賀県立琵琶湖博物館・研究員